

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年8月号 通巻56号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

Google Earthで位置情報管理 デジタル地図がもたらした恩恵



[左]GoogleEarthで東京都23区を表示(全域ではない)。赤はタヌキ、青はハクビシンを表す。東部は目撃情報が少ないのが一目瞭然。
[右]目撃情報が多い杉並区にも空白区はある。赤線の範囲が1kmメッシュ。中央が桃井原っぱ公園。境界ぎりぎり(画面右下)でハクビシンの目撃情報が1件あるのみ。



東京タヌキ探検隊！では目撃情報はすべてデータベース・アプリケーションで管理しています。そして位置情報はGoogleEarthで表示できるようにしています。

デジタル地図でわかること

東京タヌキ探検隊！は目撃情報をいただくと、その返信で例えば「半径〇m内に〇件の目撃情報があります」というように付近の目撃例を紹介しています。こんなことができるのも位置情報をGoogleEarthで可視化しているからです。

東京都23区内では目撃情報の累積は2000件を超えており、上の画面のように高密度の情報になっています。ただ、地図を拡大してみると意外とスカスカだったりします。2000件は多いようでまだまだ少ない情報量なのです。それでも、目撃情報が集中する地域があること、東部の低地帯は目撃情報が明らかに少ないこと、品川区・大田区はタヌキは非常に少なく、ハクビシンが多いことな

ど、ビジュアル化することで読み取れる情報は多くあります。

東京都23区外の目撃情報はまだ非常に少なく、ビジュアル化の恩恵はまだ得られていません。

このGoogleEarthの画面はホームページでは公開しておらず、講演などの時にちょっとだけお見せする程度です。というのは、位置情報は微妙に個人情報に関係するからで、じっくり見せられるようなものではないのです。ですのでこの画面をご覧くださいになりたい方は私の講演の機会を逃さないようにしましょう。

GoogleEarth、Googleマップが登場する以前は紙の地図に頼るしかなく、正確に誤差なく位置情報を記録するのは難しいことでした。そのため私はデジタル地図に早くから注目してきました。2007年にはGoogleマップの緯度経度情報を採用し、位置情報の管理が容易になりました。毎年恒例の報告書では分布地図を掲載していますが、この分布地図はデータベース、表計算アプリケーションを駆使して半自動で生成されてい

ます。これも数値で管理しているからこそ可能なのです。

可能性を秘めたサービス

地図のデジタル化はこのように非常に大きな恩恵をもたらしました。前世紀では非常に困難だったことが今では簡単に実現できてしまうのです。パソコン・インターネットの普及はさまざまな有益なサービスをもたらしましたが、デジタル地図はその中でも特に重要なサービスだと言えます。デジタル地図はもっといろいろな可能性を秘めています。これからの生物調査では必要不可欠な存在になっていくでしょう。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>